

**新たな射撃場のあり方検討委員会
第4回資料**

平成30年3月27日

1 国民体育大会におけるクレー競技の状況について

国民体育大会における本県クレー射撃の競技成績の推移

(単位:位)

年 度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
トラップ	2	4	17	21	7	16	5	23	44	30	6	37
スート	31	-	5	4	11	1	-	10	-	-	-	11
総合順位	5	7	8	7	12	2	8	16 最下位	17 最下位	15 最下位	9	14 最下位

総合順位の最下位の表記については、「競技参加点のみを獲得した場合の順位」という意味での表記であり、複数県が該当する。

国民体育大会におけるクレー射撃競技の隔年開催について

年次	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
開催県	愛媛県	福井県	茨城県	鹿児島県	三重県	栃木県	佐賀県	滋賀県	青森県	宮崎県
会場 公営 民間 の別	公						未定 (県営 検討)		未定 (民間 検討)	
	民									
隔年開催の実施	-	-	【隔年開催】				【隔年開催】			

平成31～38年度は隔年開催

(実施競技については4年毎に見直し。平成39年度以降は未定)

平成29年3月17日付け 国民体育大会関係決定事項等について(通知)

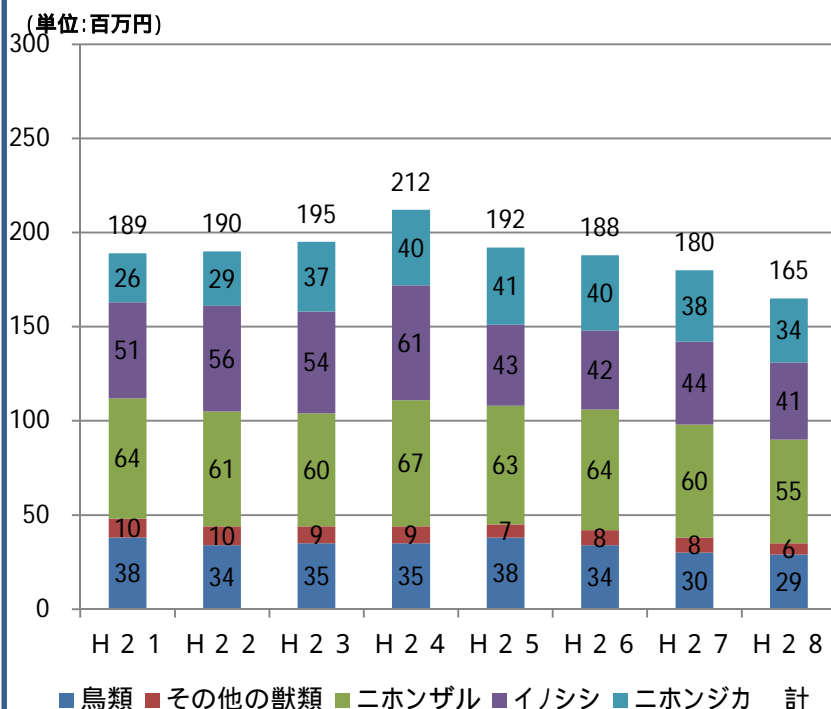
2 野生鳥獣による農林業被害の状況について

野生鳥獣による農林業被害は、平成28年度においては、6億8千2百万円で、被害のうち、全体の約6割がニホンジカ、イノシシ、ニホンザルによるもの

・平成28年度農林業被害額内訳

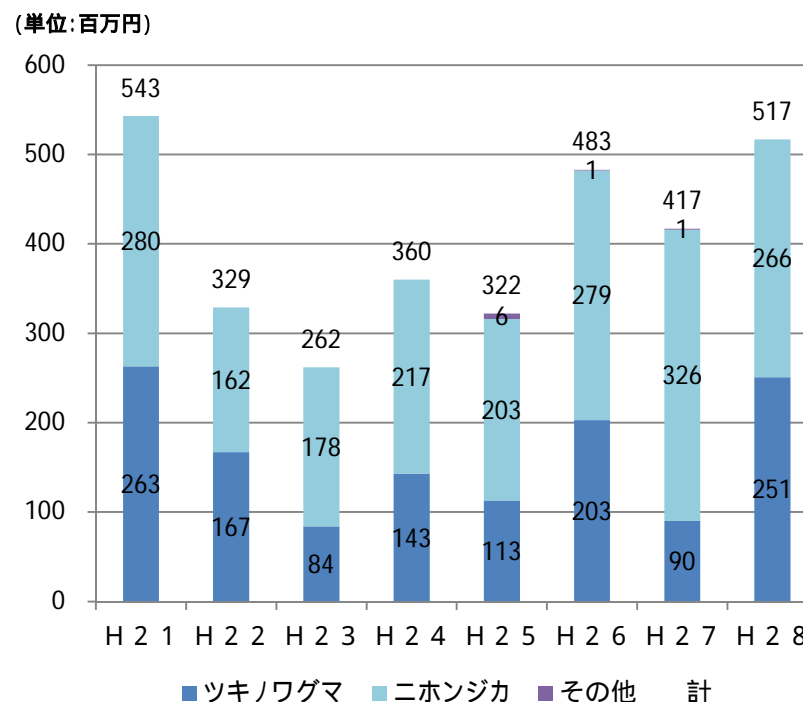
ニホンジカ: 3億円、イノシシ: 4千百万円、ニホンザル: 5千5百万円、ツキノワグマ: 2億5千百万円
鳥類: 2千9百万円、その他: 6百万円

農作物被害額の推移



農作物被害のうち、ニホンジカ、イノシシ、ニホンザルによる被害が全体の約8割を占める

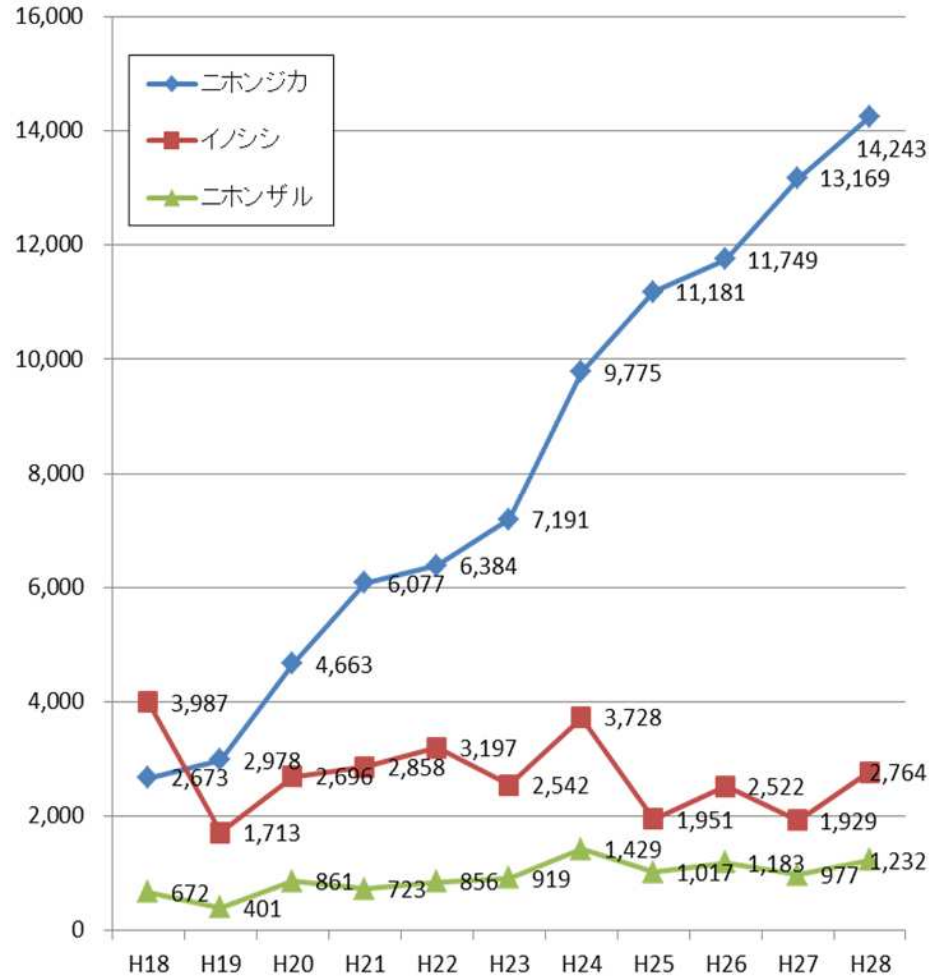
森林被害額の推移



野生鳥獣による森林被害は、「ニホンジカによる枝葉や樹皮の食害」、「ツキノワグマによる樹皮被害」が主である。

3 野生鳥獣捕獲対策の概要について

主な野生鳥獣の捕獲数の推移



ニホンジカ捕獲数は、捕獲圧の強化により10年前の約5倍

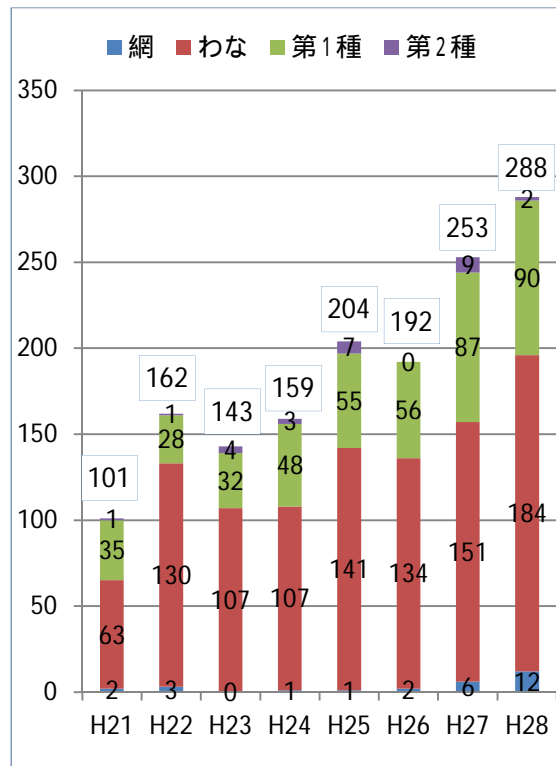
捕獲目標について

- ニホンジカ
 - ・推定生息数 71,146頭(平成27年度末)
 - ・目標 平成35年度までに半減化(平成23年度比)させ、その後、適正生息数(4,700頭)とする
 - ・平成29年度捕獲目標 16,000頭
 - 管理捕獲等 12,000頭
 - 県 4,300頭
 - 市町村等 7,300頭
 - 国等 400頭
 - 狩 猟 4,000頭
- イノシシ
 - ・推定生息数 調査方法が確立していない
 - ・目標 里山の耕作地周辺に生息するイノシシの密度を限りなく「0」に近づける
 - ・平成29年度捕獲目標 3,000頭
 - 管理捕獲 1,200頭
 - 狩 猟 1,800頭
 - ニホンザル
 - ・推定生息数 把握している加害群 63群
 - 群れの頭数を把握できている加害群 48群(約3,000頭)
 - 群れの頭数を把握できていない加害群 15群
 - ・目標 加害ザルがなくなり、農地周辺や住宅地周辺に出発しないこと
 - ・平成29年度捕獲目標 1,200頭
 - 加害レベルの高い群れや個体を中心に捕獲

4 狩猟者数の推移について

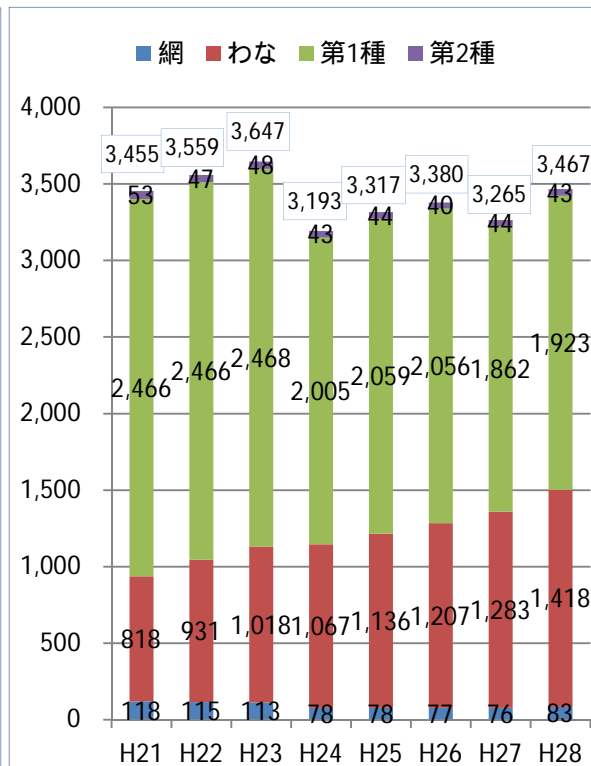
狩猟免許試験合格者数はH28年度に大きく増加した。種類別に見ると、第二種を除く全種類で増加している。狩猟免許所持者数は横ばいの状況にあり、種類別に見るとわな猟免許所持者が年々増加している。狩猟者登録数は減少傾向にあったが、H27年度から増加に転じている。県外登録者は減少を続けている中、県内登録者の増加数がそれを上回ってきている。種類別に見るとわな猟の狩猟者登録数は増加傾向にある。

狩猟免許試験合格者数の推移



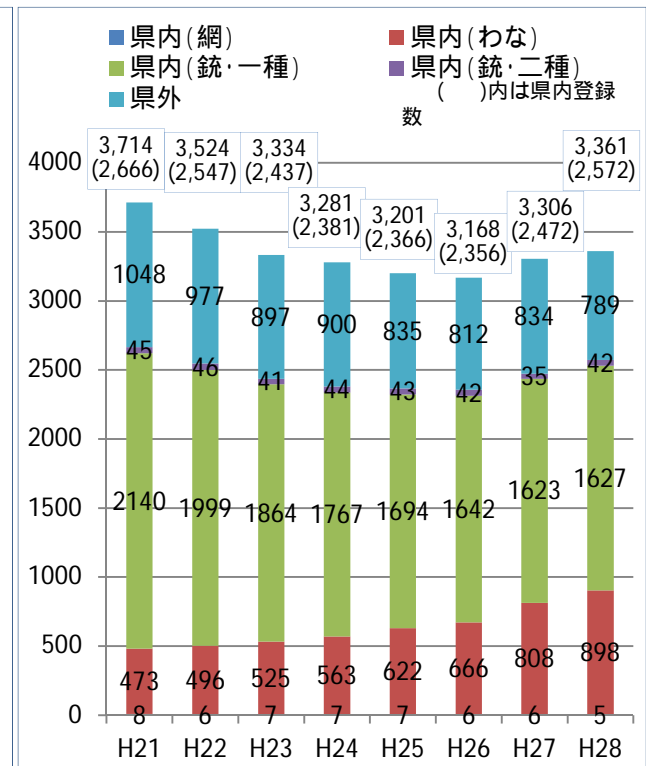
各年度の狩猟免許試験合格者数

狩猟免許所持者数の推移



各年度末の狩猟免許所持者数

狩猟者登録数の推移



各年度末の狩猟者登録数(狩猟を行おうとする者は、あらかじめその都道府県に登録しなければならない)

5 代替方策の状況について

クレー射撃競技練習場確保事業費補助金

葦崎射撃場強化練習参加者数とクレー射撃練習場確保事業費補助金利用者数(単位:人・千円)

年 度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
延人数	238	151	255	-	-	-	195	395	744	458	496
実人数	-	-	-	-	-	-	22(3/3)	16(6/6)	17(3/3)	13(2/3)	13(2/3)
補助金実績	-	-	-	-	-	-	2,441	2,441	2,441	2,441	2,441

注：平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策
括弧内の数字は、国体出場選手のうち補助金を受給した数（受給者数/国体出場選手数）

管理捕獲従事者射撃訓練費補助金

葦崎射撃場のライフル利用者数と管理捕獲訓練補助金の利用者数との比較（単位:人・千円）

年 度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
延人数	483	464	450	-	-	-	357	405	635	719	889
実人数	-	-	-	-	-	-	357	405	447	488	587
補助金実績	-	-	-	-	-	-	1,592	1,715	2,697	3,090	3,820

注：平成21年7月葦崎射撃場閉鎖、平成24年度から代替方策。
葦崎ライフル射撃場個人利用者数は、猟友会会員に限定してない。
平成26年度から補助金の利用上限を2回に引き上げた。

中間取りまとめの内容(H29.1.31検討委員会)

スポーツ振興及び鳥獣被害対策の面から、練習環境の向上の必要性があると認められるが、現時点では、県が施設整備する必要性まで判断するのは難しい。

そのため、県において、次の事項について検討すること。

- ・競技力と鳥獣被害では影響や課題が異なることから、クレー射撃場とライフル射撃場は、それぞれの事情を踏まえて検討すること。
- ・その際、代替方策の充実や民間射撃場の活用等の可能性について検討すること。
- ・県民理解が得られる練習環境の向上の具体的な方法を検討すること。

関係者からの意見聴取

1 県猟友会・クレー射撃協会・ライフル射撃協会の意見

- ・旧葦崎射撃場と同様に県営の射撃場が必要である。
- ・現在は県内には競技用スピードにすぐに対応してくれる射撃場はない。
- ・練習環境確保のための方策として、県内民間射撃場を活用して整備するという考え方もある。
- ・狩猟従事者の事故防止の観点からは、県内でライフル銃を撃つ練習場所の確保が必要である。
- ・ライフル射撃への動的標的(50m)の導入は、練習のために有効である。
- ・補助事業について実際の利用状況を踏まえて、より使いやすいものへと見直しをして欲しい。

2 民間射撃場の意見

- ・公式大会の開催受け入れや強化練習日の設定などについて協力を検討したい。
- ・クレー放出機の更新など環境が整えば、競技用スピードへの短時間での調整は可能である。